

南江治郎 （明治） 詩人、劇作家。明治二十五年四月二日京都生れ、昭和五十七年五月二十六日歿（一九二二）。初名、郎。大正十年早稻田大學中退。十二年雜誌『新詩潮』主宰、のち『マリオネット』編輯、その郷土演劇協會を興して新人形劇運動を推進。昭和九年日本放送協會に入り、企畫部長、編輯局長、理事等歴任、二十八年退職。

著譯書、詩集『異端者の戀』（大正十年九月一日神奈川・福田止夫編輯、民衆文藝社）、『原始と文明との中間に怯える者』（大正十二年一月一日新潮社）、戯曲集『悪戯の城』（大正十二年一月五日越山堂假事務所）、『南枝の花』（昭和二年五月二十日新潮社）、『人形劇の研究』（昭和二年六月二十日原始社）、『イエーツ舞踊詩劇集』（譯著、昭和二年八月二十日自刊・東京詩學協會、厚生閣書店發賣）、『原始民俗假面考』（昭和四年八月二十日地平社書房「民俗藝術叢書」）、『日本現代詩研究』（合著・百田京治編、昭和五年二月十五日金星堂「現代詩講座」特裝本）、『新詩集』（昭和八年二月二十五日兵庫・自刊）、『文藝科外讀本』（昭和九年五月五日立命館出版部）、『新生第一詩集』（合著・白井喜之介編、昭和十二年十一月二十日京都・新生同人社）、『人形アサウスト』（昭和十七年七月五日起山房）、『少年國民海洋詩集』（合著・日本青年詩人聯盟編、昭和十八年二月二十五日立命館出版部）、『御櫛わかれら』『青年朗唱詩集』（合著・詩人同志會編、昭和十八年八月十五日旺文社）、『日本詩集・第〇輯』（合著・野長瀬止夫編、昭和十八年九月五日淡海堂出版株式會社）、『止し』『勤勞藝能』



能』（合著、昭和十九年九月序・大政翼賛會文化動員部「勤勞藝能推

「導資料」)、詞集「可人體頌歌」(合著・恩地孝四郎編、昭和二十一年六月、千白富荘本社)、  
「諸國の人心生活」(合著・河竹繁俊編、昭和二十四年八月、千白富荘本社)、  
「ノーマン・コーサイン作」  
「可放送文藝の研究」(昭和二十九年二月、日宝文館)、詩集「壺」(昭和二十八年六月、千白東北書院)等。

